

ワークショップ9

「ガイドライン出版後の大腸憩室症診療の現状と今後」

司会 貝瀬 満（日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）

松本 主之（岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野）

本邦では大腸憩室保有率が上昇し、大腸憩室症の頻度も高くなっている。2017年末に本学会より「大腸憩室症（憩室出血・憩室炎）ガイドライン」が報告された。本セッションでは大腸憩室症のリアルワールドデータを提示頂いき、ガイドラインの妥当性と問題点を討論し、今後の方向性を考えたい。大腸憩室出血では造影CTと緊急内視鏡の位置づけ、大腸憩室結紮術などの止血術の安全性と有効性、再出血危険因子と再出血予防、膿瘍合併大腸憩室炎のドレナージ術適応と有効性、など多くの演題応募を期待する。